

お知らせ アステラスメディカルネットに記載している「添付文書」の表記については「電子添文」と読み替えをお願いします。

アステラスメディカルネット トップ > 医療関連情報 > Astellas Square > FOCUS –より良い医療の実現に向かって– > 救急医療 > 大胆な改革を実践し、地域医療を担う病院を活性化

ブックマークに追加 メールで共有

FOCUS –より良い医療の実現に向かって–

大胆な改革を実践し、地域医療を担う病院を活性化

佐野厚生農業協同組合連合会 佐野厚生総合病院



栃木県佐野市 佐野厚生農業協同組合連合会 佐野厚生総合病院 病院長

村上 円人 先生

1937年に開院した歴史と伝統を誇る佐野厚生総合病院。長年にわたって地域住民に必要とされる医療を提供してきましたが、近年ではさまざまな課題を抱え、めざす医療の実現が難しい状況にありました。そこで、2017年に院長に就任した村上円人先生のもと大胆な改革を行い、現在は佐野市の中核病院として大きな躍進を遂げています。

研修センターを立ち上げて教育体制を強化し、人材不足を解消

栃木県佐野市と足利市を中心に形成される両毛地区は人口30万人規模の医療圏であり、他の地域同様に人口減少が進んでいます。脳梗塞や心不全、呼吸器疾患や糖尿病は今後も増加傾向が続くと予測されることから、急性期医療のニーズもまだまだ高い地域です。村上先生は、「他市の市立病院で22年間勤務してきましたが、私がめざす地域医療の形を、リーダーシップを取りながら実現していけることは大きな魅力であり、院長という大任を引き受けさせていただきました」と振り返ります。

ところが、村上先生が院長に就任した2017年当時、同院には課題が山積していたといいます。例えば、離職者の増加による深刻な医師不足および看護師不足です。村上先生はあらゆるデータを駆使しながら同院の課題の原因を分析しました。すると、病院のビジョンが明確でないことや行政・地域とのコミュニケーションが不足していること、そして地域での役割が不明瞭になっていることなど、すぐにでも解決すべき数多くの問題が浮き彫りになってきました。そこで、職員へのヒアリングや現場視察を積極的に行いながら部門の再編を行い、小回りの利く組織へと改革を実行しました。さらに、村上先生が力を入れたのが人材育成です。「私は、医療で最も大切なのは人材であり、人を育てることこそが患者さんにより良い医療を提供する近道だと考えています。就任したその年に人材育成のための研修センターを立ち上げ、医師の初期研修や内科専門医研修の体制などを一新する他、看護師、薬剤師、臨床工学技士など全ての専門スタッフの育成強化を組織的・計画的に行う体制を整えました」。他にも、看護部においては病棟間異動や中堅職員の幹部引き上げ、研修体制を一新してe-learningを導入するなどのさまざまな取り組みの成果もあり、2017年4月時点で76名だった常勤医は2021年4月には92名になりました。また看護師の入職者も2017年4月では23名だったのに対し、2021年4月には倍の46名に達しています。



■村上先生の改革により、腎臓・内分泌・代謝内科や泌尿器科、呼吸器外科、精神神経科などに常勤の医師が赴任しました。そして、内科専攻医も増員し、2021年度は6人となり、2022年度は大学との連携で派遣される専攻医に加えて、当院の内科専門研修プログラムを選択した3人の専攻医も赴任する予定です。

“DMAT”の結成で地域の災害医療対策に貢献する

新しいビジョンとして打ち出されたのが、「5疾病6事業を担う地域の基幹病院をめざすこと」です。村上先生自ら回復期や慢性期の病院等を訪問して地域の現状や意見などを分析し、佐野市長との面談を実行しながら2025年までの経営プランを作成しました。がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患からなる5疾病のそれぞれで専門医や人員の拡充を図る他、2020年6月には栃木県の県南地域で初めて手術支援ロボットによる前立腺がん手術を開始し、2021年9月に100症例を達成しました。

さらに、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、感染症医療、小児医療からなる6事業でも改革が急速に進んでいます。中でもいち早く取り組んだのが災害医療です。「私が院長に就任したとき、最初に職員たちに宣言したのが“DMAT”をつくるということでした。佐野市には秋山川という一級河川が流れていますが、実際に見に行ってみたところ、堤防も十分に整備されておらず危ないと直感したためです。加えて、佐野市の災害医療対策は必ずしも充実しているとはいえないことが分かり、当院の役割は非常に大きいと感じました」。村上先生はただちに栃木県および佐野市と協議し、2018年9月、同院に佐野市で初となる“DMAT”を誕生させました。すでに2チームが立ち上がっており、2020年4月には栃木県DMAT指定病院となっています。現在、2022年度4月の災害拠点病院認定をめざして準備中です。

他にも村上先生はこの4年間で数多くの改革を行ってきました。例えば、就任してすぐに地域医療連携室にダイレクトイン電話を設置し、地域での紹介・逆紹介の流れをつくる取り組みを強化。休日の夜間診療所からの受け入れの徹底や救急外来の体制強化、同院の医師の情報を載せた連携情報誌の発行などを行ったことで、当初60%程度だった紹介率が現在では80%を超えています。さらに、院内のIT化を推進して業務効率のアップを図ったり、地域のイベントに積極的に参加して疾病予防の啓発活動にもつなげたりしている他、行政に働き掛けて特定検診の無料化を実現しています。

的確な分析力と強い実行力によって病院の改革を行い、地域医療への貢献を加速していますが、まだまだ折り返し地点までも行っていないといいます。村上先生は、「人材育成の手を緩めることなく、スタッフの働きやすさや学びやすさをもっと高めたいと思います。そして診療の質をさらに高めていき、地域の皆様が安心して暮らせる医療体制を整えていきたいですね。その目標にゴールはありません」と、これからの抱負を語ります。



■佐野市唯一の2次救急輪番病院として救急車を受け入れ、地域医療支援病院として80%以上の紹介率を維持しています。



■新型コロナウイルス感染症に対して村上先生は、「入院、手術、分娩時の院内緊急検査に対応しており、通常診療とCOVID-19診療とを両立させています」と話します。

(2021年10月取材)

関連ページ